

●生物生産技術学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、動物と植物の生産を有機的に結合し、地球環境の保全にも配慮した生物生産体系の確立を目指して、講義と実験・実習・演習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を行うことにより、実践的な専門知識と教養を兼ね備えた専門職社会人として社会に貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

生物生産技術学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 作物・園芸生産、動物生産（畜産を含む）の遺伝育種学、生産学を併せて基本を理解できる者。
- (2) 実験・実習時間を十分にとって生物生産に対する実践力、応用力を身に付けた者。
- (3) 卒業論文を全員に課し、問題解決力、表現力、コミュニケーション力を身に付けた者。

3. アドミッションポリシー

生物生産技術学科では、農業（畜産を含む）または関連産業の後継者になろうとする者、生物生産業または関連産業の経営者、指導者、技術者を目指そうとする者、さらに動植物に興味と関心を有し、身につけた知識と技術で社会に貢献しようとする意欲的な人材を求めている。

- (1) 農業に関心があり、後継者や農業関連産業の指導者や技術者になろうという意欲を持った人。
- (2) 作物・園芸・動物の特質、生産技術、生命現象等に興味と関心がある人。

4. カリキュラムポリシー

生物生産技術学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 専門科目の導入的な科目を学部共通科目として配置し、広く知識・教養を身に付けるための科目。
- (2) 専門教育をより深く理解するため、専門知識、問題解決力を身に付けるための科目。
- (3) 実践的な専門知識を修得させるための実験・実習科目。技術・経験を高め、職業意識を向上させるインターンシップ。
- (4) 実験・調査結果から問題解決能力、表現力、コミュニケーション力を高めるための卒業論文。

5. ディプロマポリシー

生物生産技術学科は生物生産についての基礎知識を遺伝子レベルから生産に至るまでの基本的な知識を修得し、さらに環境にも配慮した実践的な基本技術能力が身に付いている学生に対し、学位を授与する。

- (1) 生物生産に関する基礎的な知識・教養を基本に、環境への影響を理解できる能力を修得している。
- (2) 実習・実験を通じて実践力を備えた手法や能力を修得している。
- (3) 実験や調査を通じてその結果を分析して論理的な考察ができる能力を修得している。
- (4) 実験・調査の結果を基に、自分の考えを表現し、伝える能力を修得している。